

あす 未来へ 次の100年へ

100周年事業の一環として、伊賀白鳳高等学校工芸部の皆さんに木製ベンチを作っていただき、茅町駅に設置します。工芸部を代表して、部長の森本泰成さんにお話を伺いました。

「駅を利用する人が快適に利用できるものにするを意識して制作しています。そのために学校関係者の意見を聞いたり、校内にある机や椅子の資料を参考にして、背もたれの角度を工



制作に取り組む
伊賀白鳳高等学校
工芸部の皆さん



夫したりしました。材料が大きくて機械に入らず苦労しましたが、ハンドメイドの温かみが感じられるものを目指しました。『あのベンチ良かったなあ』と利用した人の印象に残るベンチになってほしいと思います。」

このベンチは、100周年の記念の日、7月18日にお披露目となります。今後も、伊賀鉄道が皆さんに愛されながら走り続けることができればと思います。



ベンチ設置に合わせ、
駅待合室をきれいに
していただきました。



沿線に残る歴史的建造物

沿線には、歴史を感じる建造物が今も残っており、そのうち上野市駅舎、桑町跨線橋、小田第二暗渠、小田拱橋の4つは、国登録有形文化財に認定されています。



◀【上野市駅舎】

3階建ての駅舎で、屋根は急勾配の腰折屋根で、上から見ると十字形を呈した独特の形をしています。



◀【小田第二暗渠】

新居～西大手間にあり、花崗岩を積み上げた橋脚の上に、同じく花崗岩の切石を載せて造られています。



◀【桑町跨線橋】

茅町～桑町間にある煉瓦造りのアーチ橋で、橋の上を市道が通っています。



◀【小田拱橋】

新居～西大手間にあり、花崗岩を積み上げた橋脚の上に、煉瓦をアーチ状に積み上げ、花崗岩の要石で固めています。



伊賀線全通 100 ANNIVERSARY 周年

～皆さんの利用に
支えられ、次の百年へ～

2022年7月18日 伊賀線全線開通100周年

日本で初めて、新橋～横浜間に鉄道が開通して今年で150年。
伊賀鉄道伊賀線も全線が開通してから今年でちょうど100年目の節目の年を迎えました。

伊賀線活性化協議会

ごあいさつ

伊賀線活性化協議会
会長 中井 茂平

今年、伊賀鉄道が全線開通して100周年を迎えます。設立創業時ご関係の方々、この100年間の運行に関係された運転手や車掌さん、施行や線路保全、管理部門の方々やご関係してきた皆様方に敬意を表し、心から「おめでとうございます。」と申し上げます。100年間を通しての最大の危機は、何だったのかを考えますと創業時を始め、経営危機的な状況は、色々おありのことだったと思います。私は地元人間として考えるに自然災害として昭和34年の「伊勢湾台風」による被害による運行停止が大きかったのではと考える次第です。当時は、近畿日

伊賀鉄道株式会社
社長 福嶋 博

今年6月24日に伊賀鉄道株式会社の社長に就任いたしました福嶋博と申します。全線開通100周年にあたりひとことご挨拶を申し上げます。当社は平成29年4月に伊賀市を第三種鉄道事業者とする公有民営方式に事業形態を変更してから丸5年が経過し、地域にとってなくてはならない交通機関としての役割を担っております。しかしながら、昨年度はコロナ禍において

伊賀市長 岡本 栄

伊賀線が全線開通100周年を迎えました。これまでの伊賀線の100年は多くの方々によって支えられてきました。そしてまた現在、伊賀線の運行は様々な方達に支えられています。伊賀線は市内を南北に貫き、JRや近鉄と接続する交通の基軸として走り続けてきました。伊賀線により、伊賀は東へ西へつながり、人や物、両方の面において大きな貢献がありました。

本鉄道傘下ではありませんが、三重県全体が大被害を受け、旧上野市小田町の水没した田んぼの土手の上を線路だけが水面から顔を出していたのを思い出します。

それから63年間様々な危機を乗り越えて電車は、走り続けてきました。そしてこれからも走り続ける為に、私達は地元の宝である「伊賀鉄道」の利用促進を図る必要があります。今後はカーボンニュートラル社会として電車も脚光を浴びることと考えます。車社会から電車利用社会を復活させ、人々の移動手段として伊賀地域の低炭素社会に貢献する。創業者の発案にこのような新たな使命が加わり、伊賀市のメリットとしてお客様方へご利用を呼びかけたいと考えます。

大幅な減収を余儀なくされ、苦しい状況が今も続いておりますが、今年度に入り人々の動きも少しずつ回復の兆しがみられ、7月17・18日には伊賀線まつり2022の開催や記念式典を実施することとし、伊賀全体を盛り上げていくきっかけとなるよう準備をいたしました。

また、伊賀地域を支える鉄道としての信頼と期待に応えるため、安全輸送を通じ地域貢献を行なうことが第一の使命であることに変わりはありません。一層地域に根ざした安全・安心な交通機関として歩み続けたいと存じます。

そうした事から様々な影響を受け、伊賀独自の文化を育んでもきました。

全国とつながっていることの安心感、そして町の風格にもかかわって、伊賀線は地元で欠かすことのできない路線となっています。

今回の全線開通100周年を機会に再度、伊賀線が私たちの生活に果たしてきた役割を振り返り、次の100年に向けて、市民・行政・事業者一丸となって伊賀線を支えていかなければならないとの思いを強くするところです。

伊賀地域では、1890（明治23）年、関西鉄道により三雲～柘植間が開通し、三重県で初めての鉄道駅として柘植駅が設置されました。その後、1897（明治30）年には同鉄道により、現在のJR関西本線のルートで柘植～加茂間が開通し、佐那具、上野（現・伊賀上野）、島ヶ原の各駅が設けられました。

地域には、鉄道が開通しましたが、上野駅と上野中心部

の間に距離があったため、開業時から連絡が課題とされ、1916（大正5）年に、伊賀軌道により上野駅連絡所（現・伊賀上野）～上野町（現・上野市）間が開業して鉄道で結ばれることとなりました。

さらに1922（大正11）年には上野町から名張（後の西名張）まで路線が延び、伊賀線が全線開通しました。

鉄道熱の高まりから開業、全線開通へ

- 1916年 上野駅連絡所（現・伊賀上野）～上野町（現・上野市）間開業
- 1922年 上野町～名張（後の西名張）間延伸開業
- 1926年 伊賀上野～名張間全線電化
- 1930年 参宮急行電鉄の榛原～伊賀神戸間開通に伴い、接続駅として伊賀神戸駅開業
- 1941年 上野町駅が上野市駅に改称
- 1944年 近畿日本鉄道が発足 近畿日本鉄道の伊賀線となる

モータリゼーションの進展

- 1964年 伊賀神戸～西名張間運輸営業廃止
- 1973年 貨物営業廃止
- 1977年 車両がすべて5000系に入れ替え（5181形、5251形等廃止）



- 1984年 5000系車両に代えて860系車両運転開始



▲5000系車両

- 1986年 880系車両運転開始 5000系車両さよなら運転

- 1994年 ワンマン運転開始 880系さよなら運転

- 1997年 漫画家・松本零士氏デザインによる青忍者列車（860系車両）運転開始



▲880系車両

次の時代に向け新しい運行形態へ

- 2007年 伊賀鉄道設立。上下分離方式による新事業形態へ移行

- 2012年 860系車両さよなら運転

- 2016年 伊賀線開業100周年

- 2017年 公有民営方式へ事業形態を変更

- 2018年 「四十九駅」開業

- 2019年 上野市駅に愛称「忍者市駅」

- 2022年 伊賀線全線開通100周年



伊賀線全線開通100周年